

(博士前期課程) 建築・都市デザイン工学専攻【建築学コース】 ア ドミッション・ポリシー

研究科・専攻ポリシー

最新の建築技術や知識を駆使して、また、都市デザイン工学の知識を加味することで、地震、台風、火災、環境汚染などの災害から人間を守る安全・安心な社会、地球環境を保全する持続可能な社会、文化的で豊かな生活を送ることのできる成熟した社会の実現をめざす。その目的を達成するため、課題を主体的に発見・解決できる建築家、建築技術者、プランナー、デザイナーなどの高度なプロフェッショナルや研究者を養成する。

<求める人物像>

- 建築学の高度な専門知識と技術を修得し、考究するのに必要な基礎的知識を有している人
- 建築学に関する研究や開発を主導する高度な技術者や研究者をめざし、新たな知識や技術の創造に向けての思考力、洞察力、行動力を有している人
- 技術者としての責任と自覚を持ち、高度な倫理観をそなえている人
- 人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人

入学前に学修しておくことが期待される内容【建築学コース】

博士前期課程では、学部で学修した専門科目の知識や技能を基点として、さらに周辺学術領域にも学修の視野を広げながら専門分野の知識と思考を深める姿勢が求められる。また、指導教員の助言を受けながら主体的に研究課題に取り組み、研究を遂行するとともに、専修する学術分野において研究成果を発信できる能力が求められる。そのためには、建築学科の学部基幹科目とともに、選択必修科目である 4 分野の知識を定着させておくことが必要である。次に、専修する当該分野における基本的な研究・設計遂行能力を身に付けておくことが必要である。また、学術情報を収集し理解するための英語読解能力、当該分野の研究者と意見交換できる英会話能力、研究成果を世界に向けて発信するための英語学術論文作成能力、などの基本的な英語力が必要である。さらに、工学倫理（研究者倫理）を修得しておくことが望ましい。

学内進学選考

学科試験は課さず、3 年次終了時点での成績と面接試問の結果で総合的に評価する。

一般入試

学科試験として、構造系・生産系・環境系では、建築の基礎学力試験と専門試験（「建築史」「建築計画」「都市計画」「建築環境工学」「建築材料」「建築構造」「構造力学 A」「構造力学 B」の 8 科目のうち 3

科目)を課す。計画系では、建築設計、建築の基礎学力試験と専門試験(「建築史」「建築計画」「都市計画」「建築環境工学」「建築材料」「建築構造」「構造力学 A」「構造力学 B」の8科目のうち2科目)を課す。なお、専門試験の選択科目は自ら専修する分野や研究内容に近い科目を選ぶことが望ましい。英語に関してはこの学科試験以外に、TOEIC テストあるいは TOEIC IP テストの得点も加える。ただし、オンライン受験による点数は受け付けない。さらに、書類(調査書、成績証明書、TOEIC 成績)審査と面接試験の結果を合わせて総合的に評価する。

専門試験で選択しなかった分野については、大学院入学までに自修し、学部で学んだ広範な知識の定着を図る必要がある。

社会人入試

選考に関しては、学科試験は課さず、書類[成績証明書、業績書、出願理由書等]審査と面接試験の結果で総合的に評価する。

外国人留学生入試

学科試験として「建築学の基礎」を課す。さらに、書類(成績証明書、推薦書、英語外部試験の成績証明書、歴史・意匠およびデザイン・計画分野を志望する場合はポートフォリオ)審査と面接試験の結果で総合的に評価する。大学院入学までには、学部時に学んだ知識の定着を図りつつ、当該専攻科の専修領域のシラバス記載内容を事前に学修しておくことが必要である。また、日本語文献の読解と日常会話が可能で日本語能力が必要である。